

#### 経歴

趙楽際は1957年に青海省西寧で生まれたが、本籍地は陝西省西安である<sup>1</sup>。幼少時代をどこで過ごしたかについて、公式的な資料からは明らかでないが、公式経歴は文化大革命中の1974年に青海省貴徳県に「知識青年」（知青）として赴いたところから始まる<sup>2</sup>。一年で都市に戻り、1975年から1977年まで青海省商業庁の通信員として働いた。1977年2月に北京大学哲学系に入学し、1980年までそこで学んだ<sup>3</sup>。趙楽際は1980年に青海省に戻るが、以後2007年まで30年近く青海省で働いた。1980年から1993年までは商業庁関連部門に勤めた。商業庁の事務員から始まり、省商業学校教員、同校共産主義青年団（通称：共青団）委員会書記、商業庁政治処副主任、商業庁共青団委員会書記、青海省五金交电化工公司党委員会書記兼經理<sup>4</sup>、商業庁副庁長兼党委員会副書記を経て、1991年に商業庁の庁長兼党委員会書記に昇進した。1993年に商業庁を離れた後、青海省長助理兼省財政庁庁長、青海省副省長、西寧市（青海省の省都）党委員会書記、省党委員会副書記兼省長代理と順調に昇進を重ねた。2000年1月に42歳の若さで青海省長に昇進し、2003年から2007年までは省のトップである党委員会書記を務めた。就任当時はいずれも全国最年少省長、最年少省党委員会書記であり、中国政界の若手のホープであった。趙楽際が省長及び省党委員会書記に在任していた期間、青海省のGDPは2000年の約263億元から2006年には約649億元に増大した。なお、青海省勤務期間中、趙楽際は中国社会科学院や中央党校の党幹

---

1 趙楽際が西寧生まれであることは、古い公式経歴に記載されている。「省委書記趙楽際同志簡歴」『陝西日報』2007年3月26日。  
2 文化大革命中の1968年より、中学校を卒業した者が「知識青年」として農村に送られ、農業に従事するという「上山下郷」が広く行われた。  
3 趙楽際は「工農兵學員」として、入学試験を経ないで北京大学に入学した。全国大学入学試験が復活したのは、1977年冬である。  
4 青海省商業庁管轄下の家電販売企業である。

部向けの社会人大学院コースに通った経験があるが、修士学位は取得していない。

2007年の3月、趙樂際は本籍地である陝西省の党委員会書記に転任した。中国には、歴史的に腐敗や癒着を防止するため、地方の責任者に地元出身者を登用しないという「廻避」の制度があり、中国共産党も厳密ではないものの、ある程度それにしたがって人事を行っている。趙樂際はこの制度があるにもかかわらず本籍地である陝西省の党委員会書記に選出された。趙樂際の青海省における業績を党中央が高く評価していたことの表れであろう。

2007年10月の第17回党大会において、政治局委員に昇進するという見方もあったが、それは実現しなかった<sup>5</sup>。5年後の2012年の第18回党大会後の一中全会で政治局委員に抜擢され、直後に中央組織部長及び中央書記処書記に就任した。2017年の夏に、陝西省時代の側近である魏民洲が汚職腐敗の廉で摘発されたため、秋の第19回党大会での昇進は難しいという見方もあったが<sup>6</sup>、党大会で王岐山の後任として中央規律検査委員会書記に就任し、続く一中全会で政治局常務委員に選出された。

趙樂際が5年間部長を務めた中央組織部は、党の人事を司る重要部門である。党員や幹部に関する様々な情報を収集し、地方幹部や党各部門幹部の人事決定にあたっては、候補者の人物紹介資料の作成や推薦を行うことができる<sup>7</sup>。第一期習近平政権が進めた反腐敗運動の直接の担当は王岐山率いる中央規律検査委員会だったものの、摘発対象の人物照会、人脈関係の把握、後任の選出など、党幹部をめぐる問題は当然中央組織部の管轄でもある。趙樂際は中央巡視工作領導小組副組長を兼任し、反腐敗運動に携わった<sup>8</sup>。趙樂際の中央規律検査委員会

5 「陝西書記有望入政治局」『明報』2007年7月29日、「ポスト胡、公開審査 中国共産党大会、異例の記者会見 内外に透明性強調も」『朝日新聞』2007年10月17日。

6 孫嘉業「趙樂際九大入常無望」『明報』2017年5月24日、「趙樂際 中央組織部長 習氏父の墓地拡張」『読売新聞』2017年10月26日。

7 ただし、高層の人事について、中央組織部は決定権を持っていない。例えば、省レベルの党委員会書記人事は政治局が決定する。

8 江琳「王岐山在中央巡視工作動員暨培訓會議上強調 巡視要發現問題形成震懾 遏制腐敗現象蔓延勢頭」『人民日報』2013年5月18日。「巡視」とは、腐敗摘発を含む組織内規律維持のための監視業務である。巡視業務を担う各レベルの巡視工作領導小組弁公室は同レベルの規律検査委員会に設置されることになっており、巡視業務は規律検査部門と密接に繋がっている。王岐山がこの巡視業務を通じて反腐敗運動を推進したことはよく知られている。現在、各レベルの巡視工作領導小組の組長と副組長を、同レベルの規律検査委員会書記と組織部長がそれぞれ

書記への選出には、この組織部門での経験が考慮された可能性がある。

趙樂際には 2012 年から 2017 年までの中央組織部での経歴を除いて、党中央や国務院での勤務経験はなく、地方で長らく活動した。中でも、青海省と陝西省という西北部の二省でキャリアを積んでおり、西北に縁の深い人物である。また、趙樂際は陝西訛りが強いことでも有名である。記者会見や取材を嫌うことが知られており、メディアに登場することが少ない<sup>9</sup>。そのこともあってか、趙樂際の人物像を知りうるエピソードも少ない。

## 人脈

趙樂際は省長レベルまで異例の速さで昇進したものの、明確な後ろ盾がいた様子はない。そのため、趙樂際は派閥色が薄い人物だと言われることがある<sup>10</sup>。

しかし今日、趙樂際は習近平の側近と言われることが多い。例えば本籍地に着目して、趙樂際は習近平率いる「陝西閥」の一員と考える論考や報道がある<sup>11</sup>。本来本籍地が同じであるだけでは、両者の間に交流があるとは限らず、関係が緊密であることの根拠とはならない。とはいえ、習近平には文化大革命中に陝西省延安の梁家河村に下放された経験もあり、「陝西は根であり、延安は魂だ」と語るほど陝西省に強い思い入れを持っていることもよく知られている<sup>12</sup>。そのため、陝西省と縁がある人物に対して、習近平が何らかの親しみをもち得ることは想像できる。

習近平と趙樂際が陝西省という共通項を通して、関係を深めたことを示唆す

れ担うことになっているが、それは 2015 年に正式に定められた「巡視工作条例」及び 2017 年の修正版に規定されている。2009 年に出された試行版にはそのような規定は盛り込まれていない。「中国共産党巡視工作条例（試行）」『人民日報』2009 年 7 月 13 日、「中国共産党巡視工作条例」『人民日報』2015 年 8 月 14 日、「中国共産党巡視工作条例（2017 年 7 月 1 日修改）」『人民日報』2017 年 7 月 15 日。

9 林哲平「キーパーソン：趙樂際氏＝共産党中央規律検査委書記に就任する」『毎日新聞』2017 年 10 月 25 日。

10 「孟建柱掌政法 降格不入常 趙樂際掌中組部 李源潮卸任」『明報』2012 年 11 月 20 日、西村大輔「中国共産党大会 2017 習氏権力固め、前進と停滞 党規約に名、全会一致で採択」『朝日新聞』2017 年 10 月 25 日。

11 例えば、Cheng Li, *Chinese Politics in the Xi Jinping Era: Reassessing Collective Leadership*. Washintong D.C.: Brookings Institution Press, 2016, pp. 315-316, 「習近平研究 人脈（4）『同郷閥』確立 権力固め」『読売新聞』2014 年 3 月 1 日。

12 卓九成、張鑫「党中央対陝西人民の親切関懐 習近平参加陝西代表団審議側記」『陝西日報』2008 年 3 月 11 日、「習近平研究 人脈（4）『同郷閥』確立 権力固め」。

るエピソードはいくつかある。趙楽際は2007年に陝西省党委員会書記に就任した直後に、同省富平県にある習仲勳の墓地の大規模拡張を断行し、文化大革命中に習近平が暮らした梁家河村についても革命を学ぶ「教育基地」として整備したといわれる。また、2009年に習近平（当時政治局常務委員、国家副主席）が陝西省を視察した際、梁家河村に立ち寄る時間がない習近平のために、趙楽際は習近平と親交の深かった村民4人を視察先の延安市内に呼び、習近平との夕食会を開いたとも報じられている<sup>13</sup>。趙楽際のこれらの行動が事実であるならば、習近平の歓心を買うことにつながった可能性はある。中国の公式メディアから、これらのエピソードが事実であったと断言するに十分な根拠は見当たらず、信憑性に疑問の余地があることは断っておく。

趙楽際と習近平の関係が良好であると推測できるより重要な根拠は、中央組織部長としての趙楽際の働きぶりである。第一期習近平政権の間、習近平に近いとされる人物が次々に地方のトップや党の重要部門の幹部に登用されたが<sup>14</sup>、それは中央組織部とその部長たる趙楽際の協力無しには成し得なかったと思われる<sup>15</sup>。第19回党大会前の新指導部選出過程における趙楽際の貢献も重要である。胡錦濤政権では、第17回党大会と第18回党大会における新指導部人事の決定にあたって、「民主推薦」あるいは「会議推薦」と呼ばれる投票が行われ、その結果が新指導部人事にある程度反映された<sup>16</sup>。しかし、第19回党大会の準備段階で、中国共産党はこの方式を取りやめ、面談方式を採ることになった<sup>17</sup>。制度

---

13 林哲平「キーパーソン：趙楽際氏＝共産党中央規律検査委書記に就任する」『毎日新聞』2017年10月25日、「趙楽際 中央組織部長 習氏父の墓地拡張」『読売新聞』2017年10月26日、「習近平研究 人脈(4)『同郷閥』確立 権力固め」『読売新聞』2014年3月1日。

14 例えば、現在の政治局委員の中でも習近平に近いと言われる李強（上海市党委員会書記）、李希（広東省党委員会書記）、陳希（中央組織部長）、黃坤明（中央宣伝部長）、蔡奇（北京市党委員会書記）、陳敏爾（重慶市党委員会書記）らはこの時期に昇進を重ねた。

15 『産経新聞』は、趙楽際は指示がなくとも習近平の意中の人物を事前に察知し、根回しをした上で、「中央組織部の意見」として人事を提案するやり方をとったと報じている。矢板明夫「墓を造った男の大出世 趙楽際氏 タブー冒す賭けに勝つ」『産経新聞』2017年10月25日。

16 劉思揚、孫承斌、劉剛「為了党和国家興旺發達長治久安 党的新一屆中央領導機構產生紀実」『人民日報』2007年10月24日、張宿堂、秦傑、霍小光、李亜傑「開創中国特色社会主义事業新局面的堅強領導集体 党的新一屆中央領導機構產生紀実」『人民日報』2012年11月16日。第18回党大会における人事決定過程については、菱田雅晴「習近平“チャイナ・セブン”の選出過程 正統性は確保されたか？」『政権交代期の中国 胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望』東京、日本国際問題研究所、2013年、135-155頁も参考になる。

17 新指導部選出過程の変更については、趙承、霍小光、張曉松、羅争光「肩負歷史重任 開創復興偉業 新一屆中共中央委员会中共中央紀律検査委员会誕生記」『人民日報』2017年10月25日。

変更の理由の一つとして、周永康や孫政才、令計画らが会議推薦の制度を悪用して票の売買を行ったことが挙げられた。新しい方式では、現職の中央指導者たちが次期指導部候補者や引退幹部たちと面談し、広く意見の聴取を行うことになり、習近平自身も 57 名と面談したという<sup>18</sup>。また、新たな方式に基づいて新指導部に推薦する人物の条件として、習近平を核心とする党中央と高度な一致を保ち、その権威と集中的かつ統一的な領導を擁護することが強調された。このような方式は、当然人事決定において習近平の意向をより反映しやすくする効果を持った<sup>19</sup>。新指導部選出過程を説明した公式報道の中に、趙樂際の役割に関する記述はない。しかし、新指導部選出方式の制度設計や面談の資料準備、候補者名簿の作成、面談の調整などには当然人事を司る中央組織部が深く関わっており、その部長たる趙樂際の役割は必然的に重要なものである。その意味で、趙樂際が習近平の権力強化に大きく貢献したことは間違いない。これらの事柄に鑑みるに、趙樂際と習近平の関係はおそらく良好であると思われる。

趙樂際は、青海省時代に商業庁や商業学校の共青団委員会書記を務めた経験はあるものの、共青団出身者に広い人脈を持つ胡錦濤やその側近たちと個人的なつながりを示す材料はない。ただ、少数民族が多い青海省において安定を維持したことが胡錦濤に評価されたという報道がある<sup>20</sup>。また、胡錦濤は就職後、1982 年まで十数年に渡って西北地方の甘肅省に勤めており、西北地方の事情をよく知る。その意味では胡錦濤と趙樂際に縁があるとも言える。

趙樂際の家族について、1990 年台前半に陝西人民教育出版社の社長を務めた趙喜民を父親だとする見方が有力である<sup>21</sup>。西北野戦軍（後の第一野戦軍）副司

---

日、趙承、霍小光、張曉松、羅争光「領航新時代的堅強領導集體 党的新一屆中央領導機構產生紀實」『人民日報』2017 年 10 月 27 日を参照。本段落の記述はこれらの記事に基づく。

18 もちろん、習近平が誰と面談したのかは発表されていない。

19 実際に第 18 期政治局委員のうち、年齢的には留任可能だったにもかかわらず、張春賢と劉奇葆（当時中央宣伝部長）はヒラの中央委員に降格し、李源潮（当時国家副主席）は中央委員にすら選ばれなかった。2018 年春に張春賢は全国人民代表大会常務委員会副委員長、劉奇葆は人民政治協商會議全國委員會副主席という閑職をあてがわれ、李源潮は国家副主席を退任し、完全引退となった。三人はいずれも習近平との関係に問題があったか、仕事ぶりに習近平が不満を持っていたと言われる。

20 「中国：政策実行力を重視 新体制、側近で固め 新常務委員の横顔」『毎日新聞』2017 年 10 月 26 日。胡錦濤にチベット自治区勤務経験があることに留意されたい。

21 高新「趙樂際父親是習近平父親的老部下」自由亞洲電台、2019 年 2 月 18 日 (<https://www.rfa.org/mandarin/zhuannlan/yehuazhongnanhai/gx-02182019145850.html>)。

令員や青海省政府主席、陝西省長などを務めた趙寿山を趙樂際の父親だとする説もあるが、おそらく事実ではない<sup>22</sup>。広西チワン族自治区人民代表大会常務委員会副主任兼桂林市党委員会書記を務めている趙樂秦は趙樂際の弟である<sup>23</sup>。

## 政策、思想的傾向

栗戦書と同様に、趙樂際は地方幹部としてのキャリアが長く、これまで発表されている文章や発言は、個人の考えというよりも地方の利益代弁者としてのものが多い。他の地方指導者と同様に、趙樂際は江沢民の「三つの代表」や胡錦濤の「和諧社会」、「科学的發展観」を絡めて開発や建設について語った文章をいくつも発表してきた<sup>24</sup>。青海省と陝西省という自然環境が厳しい西北地域に長くいた趙樂際にとって、經濟發展が主要な関心であったことは言うまでもない。趙樂際は、江沢民が打ち出した「西部大開發」にも精力的に取り組み、2000年には青海省長として『朝日新聞』の「西部大開發」に関する取材に応じている<sup>25</sup>。趙樂際は、インフラのほか、教育、放送事業、農村の医療体制づくりに力を入れ、資源を生かした工業の開発を進めると述べ、その際の資金の手当については、計画經濟時代のように中央政府に頼ったり、沿岸部のように外資に依存したりせず、民間部門を頼りにすると発言している。

趙樂際は貧困対策や民族問題にも力を入れていたようである<sup>26</sup>。陝西省着任後、趙樂際は即座に西安市内の回族居住区の強制移転を中止させ、民族衝突の危機を回避したという。これは青海省での少数民族関連業務の豊富な経験に基づいた措置だったと思われる。省内をくまなく回り、各地で民生について問い、「貧

---

22 習近平の父親の習仲勳は人民解放軍の西北野戦軍及び第一野戦軍の政治委員を務め、趙寿山の戦友であった。1894年生まれの趙寿山と1957年生まれの趙樂際とは、親子として年齢が離れすぎている。趙樂際の父親については、李成も言及している。Li, *Chinese Politics in the Xi Jinping Era*, pp. 315-316, 435.

23 黄澄、姜琨「中組部如何選“補缺”官員」『環球人物』2014年第25期、25頁、「趙樂秦簡歷」地方領導資料庫 (<http://ldzl.people.com.cn/dfzlk/front/personPage4552.htm>)。

24 「“三個代表”重要思想與西部大開發」『青海學刊』2003年第6期、4-7頁、「在發展中推進青海和諧社會建設」『求是』2005年第21期、26-28頁、「關於構建社會主義和諧社會問題的思考」『求是』2006年第22期、10-12頁、「在科學發展中全面建設西部強省」『求是』2012年第16期、15-17頁。いずれも趙樂際による署名記事である。

25 「經濟格差是正を期待 中国『西部大開發』、地元の思いを聞く」『朝日新聞』2000年5月10日。これは日本の大手新聞メディアに趙樂際が初めて登場した記事である。

26 「西部政壇明星 平步青雲 主政中共發迹地習近平故郷」『明報』2012年9月12日。本段落の記述はこの記事に基づく。

困対策では一人たりとも漏らしてはならない」と話したとも報じられている。

2012年以降、中央組織部長としての趙楽際は、習近平の権力基盤の強化、勢力拡大に賛同する立場であったと考えられる。2016年秋の六中全会で習近平が党の「核心」の地位を獲得するが、趙楽際は4月頃から地方視察などで「核心意識」という言葉を使い始め、習近平への権力集中を支持していた<sup>27</sup>。また、上でも述べたように、第19回党大会前の次期指導部選出方式変更を進めたことも趙楽際の立場を示すものである。

## 今後の展望

前任中央規律検査委員会書記の王岐山（現国家副主席）は習近平が主唱する反腐敗運動を取り仕切り、大きな注目を集めた。習近平は依然として反腐敗運動を進めており、趙楽際は新たな反腐敗担当者として、その陣頭指揮に立っている。ただし、趙楽際が王岐山と同様な存在感を発揮し、活躍できるかについては不確定要素もある。王岐山以前、中央規律検査委員会やその歴代の書記たち（賀国強や呉官正）は必ずしも大きな存在感を有していなかったことに留意しなければならない<sup>28</sup>。王岐山が華々しく活躍できたのは、政治キャンペーンとしての反腐敗運動の重要性、習近平の王岐山に対する信頼の篤さ、そして何より王岐山の実力や行動力の故である。今後反腐敗運動がいつまで続くのか、習近平が王岐山と同程度に趙楽際を信頼しているかは不明である。反腐敗運動を司る趙楽際の実力がどれほどのものかもわからない。とはいえ、趙楽際は中央組織部長を5年間務めていたため、組織人事に関する経験と情報を多く持っており、それが中央規律検査委員会での活動に大きく役立つことは言うまでもない。

今後の趙楽際の活動を展望する上で、もう一つ考慮すべき要素は、新設された国家監察委員会である。これまで党中央規律検査委員会は国家機関の国務院監察部と事実上一体となって業務を行ってきたが、2018年3月の党と国家機構の

---

27 盛若蔚「趙楽際在河南調研時強調 充分發揮基層黨組織的戰鬥堡壘作用」『人民日報』2016年4月1日、「趙楽際到中国浦東幹部學院調研時強調 做貫徹黨章黨規貫徹習近平總書記系列重要講話的模範」『人民日報』2016年6月25日、盛若蔚「趙楽際勉勵中央和国家機關與省區市双向交流任職中青年幹部在新的崗位奮發有為建功立業」『人民日報』2016年7月26日。

28 1978年に中央規律検査委員会が再設置された時、元老の陳雲が第一書記に就任したが、これは例外的である。陳雲は1987年まで第一書記の座にあったものの、中央規律検査委員会の業務は陳雲の活動の中で必ずしも大きな比重を占めていなかった。

改革によって、監察部や国家腐敗予防局をはじめとする監察関連部門を統合した国家監察委員会が設立された。地方レベルでも監察委員会が設立され、いずれも党の規律検査委員会書記が監察委員会の主任を兼ねたため、当初は趙楽際が国家監察委員会主任に就任するものと思われていた<sup>29</sup>。しかし、2018年3月の全国人民代表大会で国家監察委員会主任に就任したのは、政治局委員、中央規律検査委員会副書記、国務院監察部長などを務める楊曉渡であった。国家監察委員会の権限がその主たる前身の監察部よりも強化されたこと、趙楽際が楊曉渡の中央規律検査委員会における直属の上司であること、そして「党が国家を領導する」という中国共産党の統治の大原則を考慮すると、中央規律検査委員会及び趙楽際の権限は強化されたと考えるのが合理的である。とはいえ、実際の運営には政治エリート間の相互作用が働くため、役割分担、権力配置など流動的な部分も多く、断定は難しい。

党大会以後、中央規律検査委員会はすでに多くの高級幹部を摘発している<sup>30</sup>。今の所、反腐敗運動は趙楽際の下でも強力に推し進められており、趙楽際はある程度大きな権限と存在感を発揮できていると推測される。

中国共産党が2018年3月に発表した大規模な「党と国家機構改革方案」の中で新設あるいは改組された委員会の一つとして、会計検査を司る中央審計委員会がある。趙楽際はその副主任にも就任している<sup>31</sup>。新しい委員会の活動実態、権限はまだ十分に明らかにはされていないが、会計検査と反腐敗は密接に繋がっており、この委員会が趙楽際の活動を助ける効果を持つ可能性も十分にある。

次回党大会が開かれる2022年の段階で、趙楽際は65歳であるため、年齢的には政治局常務委員への留任が可能である。

---

29 「中国：第19回共産党大会 反腐敗部門、格上げ 権限を集約、監察新機構」『毎日新聞』2017年10月24日、「趙楽際掌中紀委機高 候選名單不見王岐山」『明報』2017年10月22日。

30 摘発された幹部などは、中央規律検査委員会のウェブページで確認できる。「審査調査」中共中央規律検査委員会・中華人民共和国国家監察委員会 (<http://www.ccdi.gov.cn/scdc/>)。

31 主任は習近平であり、もう一人の副主任は李克強である。